

木野工『旭川今昔ばなし』直筆原稿展



旭川生まれの作家 木野工(きのたくみ)の著作『旭川今昔ばなし』(北海タイムス初出)の直筆原稿をもとに、彼の作品の題材ともなった旭川の建物や街並みを、旭川スケッチ研究会会員が描いた絵画と、懐かしい写真と共に展示紹介いたします。

2021年 5.11(火)~8.28(土)

■ 記念講演会 5.15(土)

(裏面参照)

絵・写真と共に

会場 旭川文学資料館
(旭川市常磐公園常磐館)
開館時間 午前10時~午後4時
休館日 日・月・祝祭日(入館無料)



旧竹村病院六角堂 富田 忠征



旭川駅前 旭川市中央図書館蔵



旧中島遊郭 版画/菱谷 良一



旭川商工会議所 中村 忠雄

主催 旭川文学資料館 / 協力 旭川スケッチ研究会
【お問い合わせ先】
「(NPO法人) 旭川文学資料友の会」
〒070-0044 旭川市常磐公園、旭川市常磐館内
TEL・FAX (0166)22-3334

木野 工 (きの たくみ)



【1920(大正9)年～2008(平成20)年】

旭川市生まれ。小説家。庁立旭川中学卒業後、北海道帝大工学部 鉱山工学科へ進学、1943(昭和18)年、3年で繰り上げ卒業。海軍予備学生として横須賀海兵団入隊。翌年、北千島占守島に配属(10ヶ月)。山形の天童市で敗戦をむかえる。

旭川に復員後は、北海日日新聞社へ入社。1953(昭和28)年、文芸誌「冬濤」同人となる。同年「粧われた心」が第30回芥川賞候補に、1956(昭和31)年「煙蟲」が第36回芥川賞候補になる。北海日日新聞社と北海タイムス社合併のため、北海タイムス論説委員として札幌本社勤務の後、1960(昭和35)年より東京支社勤務。同年「紙の裏」が、翌年には「凍」が芥川賞候補になる。さらに1962(昭和37)年には「怪談」が、1970(昭和45)年には「襤褸」が直木賞候補になる。翌年、この「襤褸」で北海道新聞文学賞(第5回)を受賞。著書に『凍雪』、『襤褸』、『樹と雪と甲虫と』、『東京風信』など。

『旭川今昔ばなし』は、「北海タイムス紙」に1982(昭和57)年3月14日より翌年7月16日まで連載したものを加筆、再編成して1985(昭和60)年に出版された。



「旭川今昔ばなし」が連載された新聞「北海タイムス」
(絵・楓久雄)

《 記念講演会のご案内 》

- 日時 5月15日(土) 13時30分～
- 場所 旭川文学資料館 企画展示室
(〒070-0044 旭川市常磐公園、常磐館内)

- 講師 菱谷良一さん
- 演題 百歳！！「旭川今昔ばなし」
- ※参加料無料 定員20名
- ※申込 電話またはFAXにて受付します
TEL/FAX 0166-22-3334



北都市場を描く菱谷良一さん
1988年6月24日

菱谷良一 (ひしやういち) さん プロフィール

大正10(1921)年11月14日、旭川市4条5丁目で生まれる。今年で100歳。父は旭川新聞社で小熊秀雄と同僚。日章小学校卒。昭和11(1936)年、旭川師範学校に入学するも同16年、生活凶画事件で逮捕される。1年3ヶ月の獄中生活。卒業後は旭川ガスに就職。定年の60歳頃から公民館で絵画を学び、スケッチの旅に世界中を回り、画集も出版。現在は新ロマン派美術協会、旭川スケッチ研究会の会員としても活躍している。

旭川文学資料館



～旭川スケッチ研究会～

絵を描くことが好きなものが集い、アトリエから出て建物や街並み、自然風景を自由気儘に描きスケッチを楽しむグループ。現在の会員は、菱谷良一、米沢靖子、中野美枝子、前川明子、林弘子、中村忠雄、富田忠征、平間純一
絵ハガキセット「旭川街角スケッチ」①～⑬が販売中

■駐車場/有

当館のホームページもご覧ください。
<http://www.abs-tomonokai.jp>